

科名 泌尿器科  
対象疾患名 尿路上皮がん  
プロトコール名 GT療法

Rp	形態	ルート	薬品名	投与量	時刻・コメント	1	...	8	...	15	...	21
1	点滴注	メイン	生理食塩液	500mL	ルートキープ 残破棄可	↓		↓		↓		
2	点滴注	側管	グラニセトロンバック デキサート注 ファモチジン注 又は	1mg 9.9mg 20mg	30分かけて	↓						
	点滴注	側管	アロキシバック デキサート注 ファモチジン注	0.75mg 9.9mg 20mg	30分かけて	↓						
3	点滴注	側管	デキサート注 生理食塩液	6.6mg 50mL	30分かけて			↓		↓		
4	点滴注	側管	ネオレスタール注 生理食塩液	10mg 50mL	30分かけて	↓						
5	点滴注	側管	パクリタキセル 生理食塩液	200mg/m <sup>2</sup> 500mL	必ず3時間かけて 専用ルートJY- PF340P52使用 ※壊死性抗癌剤	↓						
6	点滴注	側管	ゲムシタビン 5%ブドウ糖	1000mg/m <sup>2</sup> 100mL	必ず30分で	↓		↓		↓		

★1クール=21日

～MEMO～

day1: 催吐レベル3(30%以上90%未満) day8,15: 催吐レベル2(10～30%)

day2～4にデカドロン1回4mgを1日2回朝、昼食後に内服。(8mg/day)

＜ゲムシタビン＞

ゲムシタビンは必ず30分で投与(副作用増強防止のため)

禁忌: 間質性肺炎、肺線維症のある患者、胸部への放射線療法との併用  
血管痛の対処方法:

① 静脈炎・血管痛を予防するために以下のことを考慮し、点滴の針を刺す。

- ・血流の良い太い血管をできるだけ使用する。
- ・毎回、できるだけ穿刺部位を変える。
- ・長く留置していた静脈、過去に静脈炎を起こした血管は避ける。

② 点滴中は、以下のことを考慮し、投与する。

- ・点滴の入っている腕を予め加温し、血管を温めて広げ、血流を良くする。
- ・メインの生理食塩水の投与量を増やし、より希釈しながら投与する。

＜パクリタキセル＞

禁忌: 薬剤アレルギーの既往の多い症例、アルコール含有、アルコールアレルギーの確認要

アレルギー-好発時期: 初回、2回目(投与開始から10分間はベッドサイドを離れない)

PVCフリーかつフィルター付き(回路名: JY-PF340P52)を使用

薬剤特徴: 1mL=20滴⇒滴下数1.6倍(90滴/分×1h)

Gemcitabine and paclitaxel chemotherapy as a second-line treatment for advanced or metastatic urothelial carcinoma

International Journal of Urology(2007)14, 1000-1004

北里大学病院におけるMVAC耐性再発進行尿路上皮癌に対するgemcitabine/paclitaxelの有用性についての検討—第二報—

北里医学 2009;39:41-43